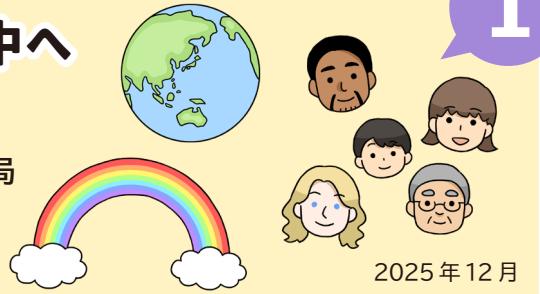


多様性が尊重される世の中へ

— 社会科学で挑戦を続ける

筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局
助教、博士（政策科学）
福嶋 美佐子



2025年12月



具体的な業務内容を教えてください

筑波大学ピューマンエンパワーメント推進局(BHE)で働いています。BHEは全ての学生・教職員が自分らしく学び、働くことができる環境を作っていく部署です。ジャー
ダー支援チーム、アクセシビリティ支援チ
ーム、キャリア支援チームの3つのチームが協
力して活動しています。私が担当するキャ
リア支援チームの主な役割は、学生の卒業
後のキャリアをサポートすることです。また、
教員としてキャリアに関する授業も担
当しています。研究者としては、外国人留
学生の就職とその後の日本社会への定着を
研究テーマとしています。日本で働く外国

福嶋 美佐子（ふくしま みさこ）さん
筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）助教。大学卒業後、企業勤務を経て米国の大学院修士課程に進学。それをきっかけにDIEI（多様性、公平性、包括性）と国際協力に関心をもち始める。帰国後、企業内研究所勤務の傍ら、社会人大学院に進学し、博士号取得。途上国の子どもたちへ教育支援をする国際NGOの副理事長とその国際ネットワークの理事、首都圏にあるインターナショナル学生寮の理事も務めている。

ジエンターの人々が一緒にいることが当たる以前の環境にいたことで、ダイバーシティに興味・関心をもつようになりました。2つ目は、同じく修士課程の時に国際協力機構（IICA）アメリカ合衆国事務所のインターーンになつたことです。せっかくアメリカにいるのだからと現地の企業・団体でのインターーンシップを希望していましたが全く受からず、最後に「応募者の中で一番日本語が上手だから」という理由で合格したのがIICAでした。そこで世界銀行本部での障害者教育に関するイベントを担当するなど国際協力に携わったことは、現在のBHEでの業務に繋がつていると思います。

人や企業の人事部を対象に、インタビューをする質的調査に基づく研究です。筑波大学にはさまざまな分野の先生がいらっしゃるので、アドバイスをいただきながら進めることができます。

「自身の職域（テーマなど）について、興味をもつたきっかけを詳しく教えてください。」
（モチベーションについても）

現在は外国人に対して風当たりの強い時代になつてゐる感じます。さまざまな意見や考え方を尊重しつつ、寛容な世の中にすることに研究者として貢献できたらと思つて います。

現在は外国人に対して風当たりの強い時代になつてゐる感じます。さまざまな意見や考え方を尊重しつつ、寛容な世の中にすることに研究者として貢献できたらと思って

希望する職に就くことができたと聞くと嬉しくなります。また、今年は研究機関の合同説明会を開催し、学生から「知らない研究所だったが話を聞いてみるとおもしろかった」などの感想をもらつた際、いい機会を作ることができたと思いました。

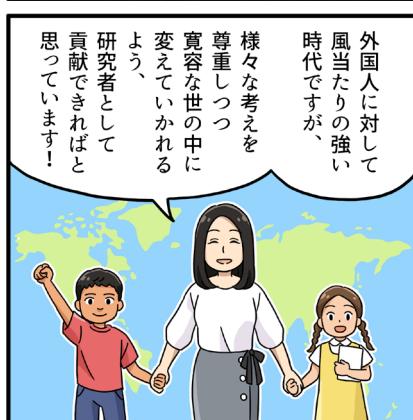
ありますか？

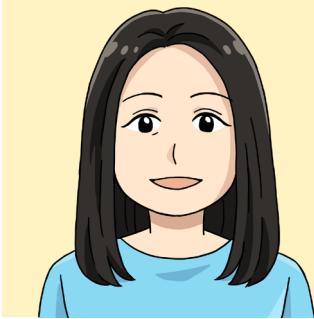
ウクライナ避難学生
へのキャリア支援

よりの動は
うに…

外国人に対して
風当たりの強い
時代ですが、

様々な考え方を
尊重しつつ
寛容な世の中に
えていかれる
よう、
研究者として
貢献できればと
思っています！





多様性が尊重される世の中へ

—社会科学で挑戦を続ける

筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局

助教、博士（政策科学）

福嶋 美佐子



2025年12月

—子どもの頃のエピソードを教えてください。

小学生の頃から、みんなに合わせることやいつもと同じようにすることを疑問に思いました。「普通」という言葉に違和感を覚えていました。受験をして多くの同級生とは別の中学校に通いました。そこで印象に残っているのは、入学して最初の国語の授業である生徒が別の生徒の「普通は」という発言を受けて「君の『普通』と僕の『普通』は違う」と言つたことです。それを聞いて私と同じように感じている人がいることを知り、気が楽になりました。両親からは変わった子だと思われていましたが、今なら「普通」が居心地のいい人とそうでない人の違いだと分かります。得意だった科目は社会科です。だから、今でも社会科学分野に携わっているのだと思います。

—子供の頃抱いていた将来の夢を教えてください。

具体的な職業を思い描いていたわけではありませんが、責任をもつて長く続けられる仕事に就きたいと思っていました。しかし子どもの頃は身近にお手本になるような人がおらず、どんな仕事が当たはまるのか見当もつきませんでした。小学生時代、同級生に「お父さん、お母さんは何をして

い。

小学生の頃から、みんなに合わせることやいつもと同じようにすることを疑問に思いました。「普通」という言葉に違和感を覚えていました。受験をして多くの同級生とは別の中学校に通いました。そこで印象に残っているのは、入学して最初の国語の授業である生徒が別の生徒の「普通は」という発言を受けて「君の『普通』と僕の『普通』は違う」と言つたことです。それを聞いて私と同じように感じている人がいることを知り、気が楽になりました。両親からは変わった子だと思われていましたが、今なら「普通」が居心地のいい人とそうでない人の違いだと分かります。得意だった科目は社会科です。だから、今でも社会科学分野に携わっているのだと思います。

—子どもの頃抱いていた将来の夢を教えてください。

具体的な職業を思い描いていたわけではありませんが、責任をもつて長く続けられる仕事に就きたいと思っていました。しかし子どもの頃は身近にお手本になるような人がおらず、どんな仕事が当たはまるのか見当もつきませんでした。小学生時代、同級生に「お父さん、お母さんは何をして



—これからの目標はありますか？

大学では学園祭実行委員会に入っています。その頃からみんなでイベントを作り上げる達成感が好きで、BHEで多数開催している就活イベントなどの準備や運営を今でも楽しんでいます。また、筑波大学でウクライナからの避難学生を受け入れた時は、想定より避難期間が長引いたので、日本での暮らしや就学だけでなく、進学や就職のサポートも行う必要が生じました。その際には、インターーンシップでお世話をになりました。さまざまな経験はその時々では点かもしれないけれど、いつか繋がっていくことを実感しています。

—これからの目標はありますか？

年に一回、大学院博士後期課程学生が自身の研究内容を発表する場を設けています。ですが、今後は人が集まる駅やスーパー

